

## 平成24年度学術情報委員会活動報告

### I. 会議等の開催状況

第1回学術情報委員会（平成24年8月7日 於：京都大学附属図書館）

1. 委員会の任務について
2. 今年度の活動方針について
  - (1) 学術情報流通の在り方と大学図書館が果たすべき役割等についての調査検討
  - (2) GIF プロジェクトの評価と運用支援体制の整備
  - (3) 学術情報の利用と保存に関する検討
3. 学術情報流通改革シンポジウムの開催について
4. 北米日本研究資料調整協議会(NCC)からの会議出席招請について

第2回学術情報委員会（平成24年11月13日 於：九州大学附属図書館）

1. 委員長の交代について
2. 平成24年度学術情報委員会活動経過報告について
3. 各小委員会・プロジェクトチームの活動について
  - (1) 学術情報流通検討小委員会
  - (2) 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム
  - (3) GIF プロジェクトチーム
4. 平成24年度国立大学図書館協会 学術情報流通セミナーの開催について

第3回学術情報委員会（平成25年5月13日 於：東京大学史料編纂所）

1. 各小委員会・プロジェクトチームの活動について
2. 理事会への委員会活動報告について
3. 学術情報委員会の今後の活動課題について
4. その他

### II. 活動内容

#### 1. 学術情報委員会の任務について

今年度から、昨年度までの「学術情報流通改革検討特別委員会」の任務のうち、JUSTICE（大学コンソーシアム連合）に引き継がれるものを除く任務を統合し担当することとなった。

#### 2. 平成24年度の学術情報委員会の活動について

今年度は、以下の3点を中心に取り組んだ。

- (1) 学術情報流通の在り方と大学図書館が果たすべき役割等についての調査検討に関して、学術情報流通検討小委員会を設置した。学術情報流通に関する様々な取り組みとそれらの課題を整理・評価するとともに、電子書籍、特に国内電子書籍流通について基本的な調査を行い、それぞれについて「調査報告書」をとりまとめた。また、学術情報流通セミナーを平成 25 年 1 月に開催した。
- (2) GIF (Global ILL Framework)プロジェクトの評価と運用支援体制の整備に関して、GIF プロジェクトチームを設置した。GIF の活動が、日米 10 年、日韓 5 年を迎えたことを機会に活動全体を総括・評価し、今後の課題、方針を明らかにし、「総括レポート」にまとめた。また、運用支援体制を整備し、国公私立大学図書館協力委員会 GIF プロジェクトとの共同体制を確立した。
- (3) 学術情報の利用と保存に関する検討に関して、学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームを設置した。図書館所蔵資料や電子情報資源等の同一レイヤーでの検索システム及び電子環境下における大学図書館の資料保存について調査検討した。

### 3. 学術情報流通検討小委員会の活動について

#### 1) 会議開催，調査実施状況

##### ①会議開催

第 1 回	平成 24 年 9 月 18 日	於：京都大学附属図書館
第 2 回	平成 24 年 11 月 7 日	於：東京大学 福武ホール
第 3 回	平成 24 年 12 月 20 日	於：大阪大学附属図書館総合図書館
第 4 回	平成 25 年 1 月 25 日	於：東京大学総合図書館

##### ②実地調査（ヒアリング）

10 月 17 日	出版デジタル機構	12 月 12 日	iNeo 社
10 月 23 日	浜松市立図書館	12 月 17 日	紀伊國屋書店
10 月 24 日	千代田図書館	12 月 19 日	大日本印刷
10 月 26 日	堺市立中央図書館	1 月 28 日	丸善
11 月 5 日	札幌市中央図書館	1 月 31 日	日本出版販売

#### 2) 活動状況

##### (1) 調査

今年度は、二つのテーマ、①学術情報流通、②電子書籍について、調査を行い、いずれのテーマについても調査結果を「調査報告書」にまとめた。

##### ① 学術情報流通

学術情報流通のさまざまな新旧の方式（伝統的方式、オープンアクセス、機関リポ

ジトリ等)の現状・課題を調査・検討し、その結果を報告書「学術情報流通の現状と課題の整理のために―検討の報告―」をとりまとめた。

報告書では、購読モデル、オープンアクセス出版モデル、機関リポジトリ、学術情報流通のコスト負担のそれぞれの現況と課題を述べ、最後に、我が国におけるオープンアクセス出版にかかる状況(投稿状況、経費負担、論文出版加工料の支払いの状況等々)を大学図書館界として関係方面と協同し、早急に調査することを提案した。

## ② 電子書籍

電子書籍、特に米国及び国内電子書籍の現状についての検討を進め、電子書籍を巡る状況をより実態に即して把握するため、電子書籍関係者(6社)や導入実績のある公共図書館(4館)に実地調査(ヒアリング)を行った。

調査結果は、報告書「大学図書館における電子書籍サービスに向けて―現状と課題―」にとりまとめた。

報告書では、電子書籍と個人市場、米国の図書館における電子書籍の現状、国内の公共図書館での導入状況、国内図書館への電子書籍供給の状況を記し、最後に、調査結果を踏まえ、以下の提案を行った。

大学図書館界として、

- ① 出版・流通関係者に国内の電子書籍新刊や個人向けの電子書籍の供給を働き掛ける。
- ② 電子書籍の商品タイプや価格設定方式、利用条件等について、積極的に検討し、出版・流通関係者に提案・協議する。
- ③ 外国出版社、供給企業にも、価格や利用条件について積極的交渉を進める。
- ④ 出版・流通関係者への積極的な働き掛けと協議を行うために、組織体制を確立する。

## (2) 学術情報流通セミナーの実施

昨年度まで、学術情報流通改革検討特別委員会が企画実施していたシンポジウム「学術情報流通の改革を目指して」を継承し、今年度は、協会事業「学術情報流通セミナー―改革に向けての共通認識のために―」として企画し開催した。

セミナーには、館長から係員まで85名の方の参加があった。参加者へのアンケート(回収率76%)では89%の方から、「とても良かった」「良かった」との評価を得ている。

趣 旨：各大学の担当者や管理職が、学術情報流通改革への取り組みについて、状況認識を共有できるよう、学術情報流通の動向と課題について概観する。

日 時：平成25年1月24日(木) 13時30分～17時30分

場 所：東京大学大学院理学研究科・理学部 小柴ホール

プログラム：

- ・「学術雑誌・電子ジャーナル購読の現状と課題」

講師：国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室長，  
大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)事務局長 熊渕 智行

- ・「オープンアクセス出版の動向」

講師：小樽商科大学学術情報課長 杉田 茂樹

- ・「機関リポジトリの現状と動向」

講師：筑波大学附属図書館情報管理課長 内島 秀樹

- ・パネルディスカッション「学術情報流通の課題と今後」

司会：京都大学附属図書館事務部長 栃谷 泰文

#### 4. GIF プロジェクトチームの活動について

##### 1) 会議等の開催状況

- ・第1回 GIF プロジェクトチーム，国公私大学図書館協力委員会 GIF プロジェクトチーム合同会議（平成24年10月25日 於：学術総合センター）
  1. 日米・日韓 ILL/DD の現状について
  2. 今後の役割分担について
  3. NCC 理事会出席報告
- ・第2回 GIF プロジェクトチーム会議（平成25年5月9日 於：学術総合センター）
  1. GIF プロジェクト総括レポートについて
  2. 今後の運営体制について
  3. その他

##### 2) 活動状況

###### (1) 日米 ILL/DD プロジェクト

###### ① 「文献複写サービス」参加状況

参加機関数は，平成25年3月31日現在，日本側161，米国側90であり，平成24年10月以降，日本側で1館，米国側で1館増加の状況である。

###### ② 「現物貸借サービス」参加状況

参加機関数は，上記同日現在，日本側89，北米側47であり，平成24年10月以降，日本側，北米側ともに変動なしの状況である。

###### ③ 日米 ILL/DD 実施状況

平成24年度の日米 ILL/DD の実施状況は，表1のとおりである。前年に比べ，依頼件数で75件減，受付件数で348件減と縮小傾向である。日本側受付分の謝絶率は69.0%である。(73.0%(20年度)→67.5%(21年度)→67.3%(22年度)→63.3%(23年度))。一方，日本側依頼分の謝絶率は38.4%である。(45.2%(20年度)→47.6%(21年度)→45.4%(22年度)→35.7%(23年度))

表1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 24 年度)

	依 頼 件 数				受 付 件 数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	1,005	612	0	1,617	302	456	0	758
現物貸借	240	164	0	404	167	590	0	757
合計	1,245	776	0	2,021	469	1,046	0	1,515

(2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

① 参加状況

参加機関数は、平成 25 年 3 月 29 日現在、日本側 116、韓国側 304 館となっている。  
平成 24 年 4 月以降、日本側では 1 館の増加、韓国側で 5 館の増加である。

② 日韓 ILL/DD 実施状況

平成 24 年度の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 38 件増、受付件数は 544 件増、依頼・受付とも増加傾向が続いている。謝絶率は依頼分が 22.8% で昨年度 (15.9%) に比べ高い数値となっている。受付分においても 36.7% で昨年度 (33.2%) より高い数値である。依然として、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回る状況が続いている。

表2 日韓 ILL/DD 実施状況 (平成 24 年度)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	78	23	0	101	2,442	1,415	0	3,857

(3) NCC<sup>1</sup> 会議出席報告

日米 ILL の米国側団体である NCC の招へいにより、相原委員 (京都大学附属図書館情報サービス課長) が平成 24 年 9 月 27 日～29 日にオハイオ州で開催された諸会議に参加した。

① OCLC/NCC 会議 (9 月 27 日)

- ・ OCLC の今後の ISO ILL 対応について

現在、ISO TC46 で検討されている内容を踏まえて ISO ILL への対応を考える、TCP/IP から Web ベースのサービスへの転換が必要、現行プロトコルのサポートは今後 5 年継続する、とのことであった。

<sup>1</sup> NCC : North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (北米日本研究資料調整協議会)

- ・ GIF でのエラー対策への要望と OCLC 側の対応

マルチカレンシーへの対応，OCLC Policy Directory への日本側からのアクセス等の要望を行ったが，現状では対応予定はないとのことであった。4 日ルール（レコードが 4 日以上放置されると自動的に次候補館への依頼になる）に関しては，来年 5 月を目途に，受付館側で日数を指定できるようにするとのことであった。

- ②NCC 理事会（9 月 28 日～29 日）

- ・ 年 1 回開かれる総括会議として位置づけられており，関係各機関，各プロジェクトのこの 1 年の取り組みが報告された。
- ・ ILL/DD Committee 関連では，OCLC との会議報告，主にエラー対応を中心とした参加館サポートの取り組み，日米間のデータ送信テスト等が報告された。
- ・ 11 月の図書館総合展で，フォーラムに出展すること，その意義とプログラム案について報告があった。

#### (4) GIF 活動の総括・評価について

これまでの GIF 活動の総括を行い，別紙のとおり「総括レポート」をとりまとめた。

### 3) 課題等

今後も，次の課題について検討を続ける。

- 1) 「総括レポート」を踏まえての，GIF プロジェクトの在り方の全般的見直し
- 2) GIF プロジェクト運用体制の整備と担当者の継続的な業務スキルの向上

## 5. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームの活動について

昨年度に引き続き，本プロジェクトチームでは，図書館所蔵資料のみならず，契約している電子情報資源や機関リポジトリのような自機関による電子化資料を同じレイヤーで検索できるウェブスケールディスカバリサービス(WSDS)の現況調査を行うとともに，新たに欧米における資料の電子化を背景とした Shared Print Repositories などの印刷体の資料保存について文献調査を行った。

### Ⅲ. 平成 24 年度名簿

#### 1. 学術情報委員会

引原 隆士	京都大学図書館機構長 (委員長)	(24. 10. 1～)
林 信夫	京都大学図書館機構長 (委員長)	(～24. 9. 30)
新田 孝彦	北海道大学附属図書館長	
鈴木 雅子	旭川医科大学 教務部 図書館情報課長	
関川 雅彦	筑波大学附属図書館副館長 (～25. 3. 31)	
	東京大学附属図書館 事務部長 (25. 4. 1～)	
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長	
木下 聡	東京大学附属図書館 情報管理課長	
加徳 健三	一橋大学 学術・図書部長	
井上 恵美	浜松医科大学 学術情報課長	
加藤 信哉	名古屋大学附属図書館 事務部長 (～25. 3. 31)	
	筑波大学附属図書館副館長 (25. 4. 1～)	
栞谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長	
相原 雪乃	京都大学附属図書館 情報サービス課長 (～25. 3. 31)	
	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長 (25. 4. 1～)	
吉田 素文	九州大学附属図書館副館長	
鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長 (～25. 3. 31)	
	(事務)	
加藤 晃一	京都大学附属図書館 情報管理課長	
井上 敏宏	京都大学附属図書館 情報管理課長補佐	

#### 2. 学術情報流通検討小委員会

栞谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長 (委員長)	
鈴木 雅子	旭川医科大学 教務部 図書館情報課長	
木下 聡	東京大学附属図書館 情報管理課長	
原 香寿子	東京大学附属図書館 情報管理課 資料管理係長	
高井 力	東京学芸大学 教育研究支援部 学術情報課 学術企画係長 (～25. 3. 31)	
	同 図書館情報係長 (25. 4. 1～)	
井上 恵美	浜松医科大学 学術情報課長	
富岡 達治	京都大学 人間・環境学研究所 情報管理掛長 (～25. 3. 31)	
	同 吉田南構内共通事務部 総務課 情報管理掛長 (25. 4. 1～)	
森石 みどり	大阪大学附属図書館利用支援課フロアサービス班 専門職員	

### 3. GIF プロジェクトチーム

加徳 健三	一橋大学 学術・図書部長	(主査)
細川 聖二	筑波大学附属図書館 情報サービス課長	
森 恭子	東京大学 大学院理学系研究科・理学部 総務課 図書チーム係長	(～25. 3. 31)
	同 教養学部等図書課 情報サービス係長	(25. 4. 1～)
菅原 光	一橋大学 学術・図書部 学術サービス課 レファレンス係長	
上村 順一	東京海洋大学附属図書館 情報サービス係長	
相原 雪乃	京都大学附属図書館 情報サービス課長	(～25. 3. 31)
	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長	(25. 4. 1～)

### 4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

関川 雅彦	筑波大学附属図書館副館長	(～25. 3. 31)
	東京大学附属図書館 事務部長	(25. 4. 1～)
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長	
加藤 信哉	名古屋大学附属図書館 事務部長	(～25. 3. 31)
	筑波大学附属図書館副館長	(25. 4. 1～)